

2007年12月18日

### [1]2006年度特別講演会・見学会報告

2006年11月7日(火)にJR東日本大宮総合車両センターの特別見学会が開催された。最初に長谷川 裕所長から JR 東日本の鉄道車両構成の変遷, 同センターの業務内容, 鉄道車両全体に関する最近の話題について詳細な説明をいただき, 熱心な質疑応答が行われた。続いて工場内の見学に移り, 一般車両の台車のメンテナンス, 特急カシオペア号の総点検, ダイレクトドライブモータと連接台車をもつ最新の通勤車両の検査, さらに駆動モータ, パンタグラフ, 空調機器のメンテナンス, 車両の塗装工程にいたるまで2時間にわたり見学させていただいた。最後に場内の博物館にて蒸気機関車からの鉄道の歴史的記念品の数々を堪能することができた。参加者は中村仁彦委員長, 北條副委員長, 林輝フェロー以下29名であった。お忙しい中, ご丁寧な説明をいただいた長谷川所長はじめ所員の皆様に厚く御礼申し上げます。見学会の写真を以下に示す。  
(文責 岩附)



JR東日本大宮総合車両センター特別見学会

## [2]12th IFToMM World Congress報告

2007年6月17日(日)～21日(木), フランス, Besançon市のMICROPOLIS Congress Centerにて12th IFToMM World Congressが開催された. 講演発表は7室パラレルセッションで行われ, 総数538件そのうち本邦からは20件の講演があり, 講演の分野をTC別に分類すると下表のようになる.

講演の分野(TC)別内訳	
Computational Kinematics	57
Gearing	68
Human-Machine Systems	15
Linkages and Cams	47
Mechatronics	47
Micromachines	9
Multibody Dynamics	33
Nonlinear Oscillations	21
Reliability	19
Robots and Manipulators	110
Rotordynamics	26
Transportation Machinery	12
Tribology	12

参加者は約800名であった. 盛会と言えるが, 我が国からの講演および参加者はもう少し多くてもよいと考える.

また, 会期中にGeneral Assembly が開催され, 次期執行部(EC)の選出および次期World Congress 開催地のなどの主要議題が可決された.

次期執行部(2008-2011 ECメンバー)は, 下記のように選出され, 本会中村実行委員長が副会長に, 現幹事長のProf. Marco Ceccarelliが会長に選出された.

President: Prof. Marco Ceccarelli, University of Cassino, Italy

Vice president: Prof. Yoshihiko Nakamura, The University of Tokyo, Japan

Secretary General: Prof. Carlos S. Lopez Cajùn, Universidad Autonoma de Queretaro, Mexico

Treasurer: Dr. Joseph Rooney, The Open University, UK

Members: Prof. Venjamin Goldfarb (RU)

Dr. Theodor Ionescu (RO)

Prof. James Trevelyan (AU)

Prof. Qin Tatong (P.R. China)

Prof. Bahram Ravani (USA)

Dr. Miroslav Vaclavik (CZ)

また, 次期(2011年)のWorld Congress開催地は, Aachen, Germanyとの決選投票を制してGuanajuato, Mexicoに決定した.

また, 会期中に盛大なバンケットが開催され, その中でIFToMM Awardの贈賞式が執り行われ, 本会関係者から,

Honorary membership : 林 輝先生 (東京工業大学名誉教授, 本会元実行委員長)

Award of Merit: 樋口 俊郎先生 (東京大学教授, 本会実行委員)

の2名が表彰された. いずれも4年に一度の贈賞機会という価値の高いもので, 両先生の輝ける業績と栄誉を讃えます.

以下に, World Congressにおける写真を示す. 次期のGuanajuatoでは多数の本会会員の参加を期待したい.

(文責 岩附)



講演会場



レセプション



バンケット会場



2008-2011 ECメンバー  
(左よりCeccarelli次期会長, 中村次期副会長)



バンケットにおける贈賞式(樋口先生と林輝先生ご夫妻)

### [3]第13回日本IFToMM会議シンポジウムの報告

2007年7月12日(木), 東京工業大学石川台3号館工学系会議室において, 総会に先立ち, 下記の要領で2007年度第13回のシンポジウムが開催された. 発表講演19件を6セッションに分け, 1件につき発表時間15分, 討論5分で行われた.

また, IFToMM Secretary General 2004-2007, IFToMM President 2008-2011であるProf. Marco Ceccarelli(University of Cassino)による特別講演「What is old in what is new in MMS research」があり, IFToMMならびに機構関連研究の今昔について興味深い話をいただいた. さらに, 元本会実行委員長, IFToMM Honorary memberである林輝先生の特別講演「日本におけるIFToMMの生い立ち」があり, 本会の立ち上げとその後の国際交流について, 多くの貴重な写真を基に熱くお話をいただいた.

シンポジウムの参加者は約60名であった. シンポジウムの様子を写真で示す.

### 第13回 日本IFToMM会議シンポジウム プログラム

日 時: 2007年 7月12日(木) 8:25~18:30

会 場: 東京工業大学石川台3号館3階工学系会議室(304号室)

発表テーマ:

セッション1:「パラレルメカニズム」 座長 中村仁彦(東京大)

1. 3-URU形回転3自由度パラレルメカニズムの運動学特性および静力学特性の評価と最適設計

○花ヶ崎秀太(東工大), 武田行生, フダ・シャムスル

2. 3-5R形並進3自由度空間パラレルメカニズムの実用作業領域に基づく最適設計

○田邊雅隆(東工大), 武田行生, フダ・シャムスル

3. Sensitivity Analysis of a 3-5R Type Pure Rotational Parallel Mechanism with Respect to Joint Axes Error

○Syamsul HUDA (Tokyo Tech), Yukio TAKEDA

4. 人間搭乗型2足歩行ロボットにおけるスチュワート・プラットフォーム型脚機構の最適化設計と評価

橋本健二(早稲田大院), 菅原雄介(早稲田大学理工研), ○服部賢太郎(早稲田大院), 林憲玉(神奈川大), 高西淳夫(早稲田大)

セッション2:「ダイナミクス」 座長 木村康治(東工大)

5. 高次スペクトルを用いた非線形振動系における解析

(磁気を利用した実験モデルについて)

○松本宏行(ものづくり大), 小野寺祐人(マキタ), 大石久己(工学院大), 山川新二

6. モード別開ループ伝達関数によるモード減衰比推定方法

○大山寛人(防衛大), 姉川憲永, 藤原浩幸, 松下修己

7. 磁力支持天秤装置による付加質量推定~弾性体の付加質量~

○藤原浩幸(防衛大), 松下修己

セッション3:「機構の運動解析・力学解析」 座長 八島真人(防衛大)

8. トリポード, ツェッパ等速継手系の回転角誤差および動力伝達軸の3次元運動

渡辺克巳(山形大), ○工藤啓克(山形大院), 村上勝彦(ファナック)

9. 構造的異性による機構の零剛性とこれを利用したトルク伝達のための非線形剛性特性機構  
 ○岡田昌史(東工大), 紀晋太郎
10. 遊星歯車式管径追従車輪走行機構による小口径管内移動ロボット  
 ～段差通過時の力学解析～  
 ○宮川豊美(東芝研究開発センター), 岩附信行(東工大)

#### 特別講演1

講師: Prof. Marco Ceccarelli

IFTToMM Secretary General 2004–2007, IFTToMM President 2008–2011,  
 Laboratory of Robotics and Mechatronics, University of Cassino, Italy

講演題目: What is old in what is new in MMS research

司会: 中村仁彦(東京大)

#### 特別講演2

講師: 林 輝

(株)小笠原プレジジョンラボラトリー技術顧問

日本IFTToMM会議元実行委員長, IFTToMM Honorary member

東京工業大学名誉教授

講演題目: 日本におけるIFTToMMの生い立ち

司会: 北條春夫(東工大)

セッション4:「アクチュエーションおよび精密計測」 座長 斎藤之男(東京電機大)

11. 水力学的骨格を利用した移動ロボット MOLOOP の開発  
 ○丸山大輔(東工大), 木村 仁, 小関道彦, 伊能教夫
12. マイクロ繊維アクチュエータの作成と駆動実験  
 ○岩附信行(東工大), 森川広一, 西田吉人(東工大), 田辺龍太
13. ピッチ測定機検査校正用高精度アーティファクトの研究  
 ○小森雅晴(京都大), 大澤尊光(産総研), 佐藤理, 木天孝(京都大), 白崎大輔,  
 高辻利之(産総研)

セッション5:「ロボティクス」 座長 岩附信行(東工大)

14. 人間形フルート演奏ロボットの開発  
 ～新型口唇部および舌部を有する頭部機構と吹鳴音の明瞭化～  
 ○山本哲郎(早稲田大院), 谷口公一, 二宮武司, Solis Jorge(早稲田大),  
 若松久仁光, 佐藤昌子(東京吹奏楽団), 高西淳夫(早稲田大)
15. ハイドロスタティックトランスミッションを用いた駆動機構をもつロボットハンドの開発  
 ○神永拓(東京大), 山本泰地, 小野惇也, 中村仁彦
16. 拮抗駆動ロボットのための学習制御  
 ○梅村敦史(東京電機大), 羽根吉寿正, 斎藤之男, 葉袋浩一

セッション6:「医療支援・福祉機器」 座長 伊能教夫(東工大)

17. 筋電位の取得位置が動作識別確率に及ぼす影響  
 ○西川佳男(拓殖大), 安達哲弘, 森田哲史, 倉林準(千葉医療福祉専門学校),  
 香川美仁(拓殖大)

18. 腹腔鏡手術トレーニングシステム及び手術支援ロボットへの応用  
 ○坂井俊哉(東京電機大), 斎藤之男, 梅村淳史
19. 小動物生体細胞観察のための蛍光顕微鏡画像安定化  
 ○李盛温(東京大), 中村仁彦, 山根克, 東條剛, 高橋誠也(オリンパス), 谷川慶, 高橋一



中村実行委員長開会挨拶



講演



講演会場



質疑応答



Prof. Marco Ceccarelli特別講演



林輝先生特別講演

また、2005年度から創設された「Young Investigator Fund」に基づくBest Paper Awardについて、本会フェローで構成される審査委員会による講演論文の事前審査に基づき、下記3名のFinalistが選出され、

- (1)防衛大学校 大山寛人君  
論文:モード別開ループ伝達関数によるモード減衰比推定方法
- (2)東京電機大学 坂井俊哉君  
論文:腹腔鏡手術トレーニングシステム及び手術支援ロボットへの応用
- (3)東京大学 李盛温君  
論文:小動物生体細胞観察のための蛍光顕微鏡画像安定化

さらに、講演発表の審査に基づき、防衛大学校 大山寛人君にBest Paper Awardを贈賞した。

その表彰式はシンポジウム終了後の総会席上で審査委員長北條実行副委員長の司会により開催され、Best Paper Award受賞者には賞状、賞牌、賞品ならびにFinalistには賞状および賞品が中村実行委員長より贈呈された。その表彰式の写真を示す。(文責 岩附)



Finalist



Best Paper Awardの賞状・賞牌の贈呈

#### [4]2007年度日本IFTtoMM会議総会の報告

2007年7月12日(木), 東京工業大学石川台3号館工学系会議室において2007年度総会が開催され, 2006年度の事業報告, 収支決算報告および監査報告, MMT誌購読料改定の件, 2007年度の事業計画および収支予算の審議ならびに承認が行われた。主な議事, 決定内容の詳細は下記の通りである。

##### I. 2006年度事業報告

###### 1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2006年6月20日)
- (2) 国際会議16th CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control (ROMANSY2006) (2006年6月20日~24日, ポーランド, ワルシャワ市)へ協賛
- (3) 国際会議7th International Conference on Rotor Dynamics (2006年9月25日~28日, オーストリア, ウィーン市)へ協賛
- (4) 国際会議10th International Conference on Mechatronics Technology (ICMT2006) (2006年11月20日~24日, メキシコ, メキシコシティ)へ協賛
- (5) 国際会議17th CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control (Romansy2008) (2008年7月~9月, 日本, 東京にて開催予定)へ協賛

###### 2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催(2006年5月23日, 2007年2月7日, 6月30日)
- (2) 平成18年度総会を開催(2006年6月30日, 東京工業大学大岡山キャンパス)
- (3) 第12回日本IFTtoMM会議シンポジウムを開催  
(2006年6月30日, 東京工業大学大岡山キャンパス)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰実施(2006年6月30日)  
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく第2回優秀論文賞授与)
- (5) 特別見学会を実施 (2006年11月7日, JR東日本大宮総合車両センター(旧国鉄大宮車両工場), 電車の整備, カシオペア等を見学)
- (6) 日本IFTtoMMニュースNo.34を発行(2006年7月8日)
- (7) 日本IFTtoMM会議のホームページ  
<http://www.dynamics.mep.titech.ac.jp/iftomm/japanese/index.html> を更新

###### 3. 会員の状況 (2007年4月1日現在)

個人会員: 106名

賛助会員: 5団体

(株)小笠原プレジジョンラボラトリー

太陽誘電(株)

(財)機械振興協会

(株)東芝

日機装(株)

Ⅱ. 2006年度収支決算報告(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

1. 一般会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
会費収入(個人)	600,000	388,000	2003 3,000×1 2004 3,000×3 2005 3,000×12 2006 3,000×10 2006 5,000×62
会費収入(賛助)	350,000	250,000	2005 50,000×1 2006 50,000×4
予稿集売り上げ	10,000	2,000	
技術交流会会費	100,000	85,000	5,000×17
見学会懇親会会費	60,000	0	
利息		269	
小計	1,120,000	725,269	
前期繰越金	0	0	
合計	1,120,000	725,269	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	決算	備考
[国際活動費]	248,000	244,520	2007年度会費
IFTtoMM 年会費	240,000	235,520	US\$ 2,000.00 × 117.76
送金手数料	8,000	9,000	
[国内活動費]	408,500	418,944	
会議費	12,000	18,470	実行委員会費用
シンポジウム・総会費	220,000	247,635	
見学会懇親会	10,000	3,200	お土産代
通信費	34,000	35,680	切手、宅急便等
コピー代	20,000	15,000	
事務委託費	80,000	80,000	年間
郵便振替費	7,000	5,920	
ホームページ維持費	12,000	12,000	年間
フェロー記念品	3,500	0	
予備費(雑費)	10,000	1,039	文具等
[MMT誌費]	72,000	60,000	12,000×5 (2006Vol.41)
賛助会員購読料	72,000	60,000	(MMT誌会計へ繰入れ)
国際会議準備金積立	100,000	0	
国際交流活動等準備金積立	250,000	0	
小計	1,078,500	723,464	
次期繰越金	41,500	1,805	
合計	1,120,000	725,269	

## 2. MMT誌会計

### 収入の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
MMT誌購読料収入			
個人	262,000	202,000	12,000 × 15 (2006Vol.41) 11,000 × 2 (2005Vol.40)
賛助	72,000	60,000	12,000 × 5 (2005) (一般会計から繰入れ)
小計	334,000	262,000	
前期繰越金	0	0	
合計	334,000	262,000	

### 支出の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
出版社への支払	312,500	347,936	VOL. 4 (2006) EUR 96.00 × 23 × 157.58 (一冊単価: ¥ 15,128)
送金手数料	8,000	10,350	
小計	320,500	358,286	
次期繰越金	13,500	-96,286	
合計	343,000	262,000	

## 3. Young Investigator Fund 会計

### 収入の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
前期繰越金	955,415	955,415	
合計	955,415	955,415	

### 支出の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
賞品	30,000	30,000	
賞状及び賞牌	4000	4,250	
通信費	6000	2,440	
小計	40,000	36,690	
次期繰越金	915,415	918,725	
合計	955,415	955,415	

## 3. 準備金

(1) 国際会議準備金	710,000
(2) 国際交流活動準備金	25,706
合計	735,706

### Ⅲ. 2006年度監査報告

#### 剰余金処分案

平成19年3月31日

(単位:円)

1. 当期末処理分剰余金	1,559,950
(1) 一般会計	1,805
(2) MMT誌会計	-96,286
(3) Young Investigator Fund	918,725
(4) 国際会議準備金	710,000
(5) 国際交流活動等準備金	25,706
2. 剰余金処理額	
(1) 一般会計	0
(2) MMT誌会計	96,286
(3) Young Investigator Fund	0
(4) 国際会議準備金	-97,000
(5) 国際交流活動等準備金	714
3. 次期繰越剰余金	1,559,950
(1) 一般会計	1,805
(2) MMT誌会計	0
(3) Young Investigator Fund	918,725
(4) 国際会議準備金	613,000
(5) 国際交流活動等準備金	26,420

上記のとおり相違ありません。

平成19年4月

日本IFTtoMM会議

実行委員長 中村 仁彦

幹事 岩附 信行

上記の調査を遂げ、その正確であることを承認します。

監事 大輪 武司

監事 山川 新二

#### IV. MMT誌購読料の改定の件

##### 1. 実行委員会からのMMT誌購読料改定の提案

MMT誌購読料に関して、実行委員会より現状の報告と以下の提案があった。

本会は会員の皆様にMMT誌購読の便宜をはかり、個人が直接購読するよりはるかに安価な購読料を提供してまいりました。(2007年7月現在で、個人の直接購入は年間355,400円となっております。)

しかしながらMMT誌の購読料値上げに加え、昨今の為替レート(ユーロ)の急激な変化に伴い、昨年度は申し込み会員購読料金12,000円に対し、実際に当会議が支払った購読料は15,000円を超えてしまいました。これまでのMMT誌購読に関わる経費の変遷を下表に示します。購読料値上げと為替レートの影響により、赤字が増大していることがご理解いただけたと思います。さらに、2007年7月現在ユーロ高はさらに促進されており、IFTtoMM総会において2007年度に購読料金が値上げされることが決定されました。

MMT誌購読のための本会のこれ以上の負担は会員に対する平等性を著しく欠くこととなります。そこで、2007年度からは、送金手数料を含み為替レート変動にも対応した実質単価での購読に変更させていただきたいと存じます。具体的には、あらかじめ仮の購読価格を設定して購読料を徴収しますが、年度末に実質単価が確定した後に、その過不足分を翌年度の購読価格に反映させて徴収することとさせていただきます。このため、2007年度の仮購読価格を、17,000円に設定させていただきます。

一年前に1,000円の値上げをさせていただき、またの値上げで大変恐縮ですが、実情をご理解いただき、ご了承いただきたくよろしくお願い申し上げます。

以上

MMT誌購読に関わる経費の変遷

年度	MMT誌 請求額	送金 手数料	MMT購読 会員収入	収支	会員価 格設定	実質 単価	実質と の差額	EU RO レ ー ト	EU RO 単 価	購 読 者 数	支 払 者 数
2002	260,294	8,000	238,500	-29,794	10,000	10,412	-412	131	80	25	24
2003	256,416	8,000	250,000	-14,416	10,000	11,496	-1,496	134	83	23	25
2004	273,557	8,000	208,000	-73,557	11,000	11,894	-894	138	86	23	19
2005	313,102	8,000	286,000	-35,102	11,000	12,524	-1,524	141	89	25	26
2006	347,936	10,350	262,000	-96,286	12,000	15,128	-3,128	158	96	23	22

##### 2. 意見交換と議決

総会出席の会員諸氏との意見交換を行ったのち、決をとり、MMT誌の購読料を実質単価に改定することとし、あらかじめ仮の購読価格を設定して購読料を徴収し、年度末に実質単価が確定した後に、その過不足分を翌年度の購読価格に反映させて徴収することを承認した。

## V. 2007年度事業計画案

### 1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2007年6月17日, 22日)へ参加
- (2) 国際会議 12th World Congress in Mechanism and Machine Science  
(2007年6月17日~21日, フランス, ブザンソン)へ参加
- (3) 国際会議 17th CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control  
(Romansy2008) (2008年7月6日~9日, 日本, 東京早稲田大学にて開催)へ協賛
- (4) 国際会議 11th International Conference on Mechatronics Technology  
(ICMT2007) (2007年11月5日~9日, 韓国, 蔚山にて開催予定)へ協賛
- (5) 国際会議 6th International Conference on Machine Automation (ICMA2008)  
(2008年, 高松にて開催予定)へ協賛

### 2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催予定(2007年7月7日, 2007年11月, 2008年1月)
- (2) 平成19年度総会を開催(2007年7月12日, 東京工業大学)
- (3) 第13回日本IFTtoMM会議シンポジウムを開催(2007年7月12日, 東京工業大学)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰  
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞授与,  
2007年度第13回シンポジウムにて)
- (5) 日本IFTtoMMニュースを年1回発行予定
- (6) 日本IFTtoMM会議のホームページを充実する
- (7) 特別講演会/見学会を企画する  
東京大学予定
- (8) 会員増強キャンペーンを行う

VII. 2007年度収支予算案(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

1. 一般会計

収入の部 (単位:円)

項目	予算	備考
会費収入(個人)	600,000	5,000 × 105(名) (2007年度分) 5,000 × 15(名) (2006年度分)
会費収入(賛助)	350,000	50,000 × 5(社) (2007年度分) 50,000 × 2(社) (2006年度分)
シンポジウム予稿集売り上げ	10,000	1,000 × 10(名)
総会懇親会会費	100,000	5,000 × 20(名)
見学会懇親会会費	60,000	4,000 × 15(名)
小計	1,120,000	
前期繰越金	1,805	
合計	1,121,805	

支出の部 (単位:円)

項目	予算	備考
[国際活動費]	250,000	
IFTtoMM 年会費	240,000	2007 US\$ 2,000
送金手数料	10,000	
[国内活動費]	408,500	
会議費	12,000	実行委員会費用
シンポジウム・総会費	220,000	シンポジウム総会費用
見学会費用	10,000	
通信費	34,000	切手, 宅急便等
コピー代	20,000	
事務委託費	80,000	年間
郵便振替費	7,000	
ホームページ維持費	12,000	年間(アルバイト雇用)
フェロー記念品	3,500	
予備費(雑費)	10,000	文具等
[MMT誌費]	75,000	15,000 × 5 (2007Vol. 42)
賛助会員購読料	75,000	(MMT誌会計へ繰入れ)
国際会議準備金積立	100,000	
国際交流活動等準備金積立	250,000	
小計	1,083,500	
次期繰越金	38,305	
合計	1,121,805	

## 2. MMT誌会計

収入の部 (単位:円)

項目	予算	備考
MMT誌購読料収入		
個人	340,000	17,000 × 20 VOL. 42 (2007)
賛助	85,000	17,000 × 5 VOL. 42 (2007) (一般会計から繰入れ)
小計	425,000	
前期繰越金	0	
合計	425,000	

支出の部 (単位:円)

項目	予算	備考
出版社への支払		
個人	412,500	VOL.42 (2007) 16,500 × 25
送金手数料	10,350	
小計	422,850	
次期繰越金	2,150	
合計	425,000	

## 3. Young Investigator Fund会計

収入の部

項目	予算	備考
前期繰越金	918,725	
合計	918,725	

支出の部

項目	予算	備考
賞品	30,000	図書券
賞状および賞牌	4,000	レーザー彫刻盾
通信費	6,000	論文審査連絡通信費
小計	40,000	
次期繰越金	878,725	
合計	918,725	

## 4. 準備金

(1) 国際会議準備金	713,000
(2) 国際交流活動準備金	276,420
合計	989,420

## VII. 2007年度日本IFToMM会議実行委員会委員

実行委員会からの推薦に基づき、2007年度日本IFToMM会議実行委員会委員を以下のよう  
に選出した。

委員長	中村 仁彦	東京大学
副委員長	北條 春夫	東京工業大学
	齋藤 之男	東京電機大学
幹事	岩附 信行	東京工業大学
委員	※伊藤 高廣	桐蔭横浜大学
	伊能 教夫	東京工業大学
	内山 勝	東北大学
	大岩 孝彰	静岡大学
	大石 久己	工学院大学
	木村 康治	東京工業大学
	五嶋 裕之	(財)機械振興協会
	小西 義昭	日機装(株)
	※小森 雅晴	京都大学
	齋木 康平	富士重工業(株)
	下条 誠	電気通信大学
	下田 博一	明治大学
	杉本 浩一	東京工業大学
	※鈴木 康一	岡山大学
	高西 淳夫	早稲田大学
	高信 英明	工学院大学
	高増 潔	東京大学
	寺田 英嗣	山梨大学
	中田 毅	東京電機大学
	南後 淳	山形大学
	樋口 俊郎	東京大学
	福田 敏男	名古屋大学
	松下 修己	防衛大学校
	松日楽 信人	(株)東芝
	森脇 一郎	京都工芸繊維大学
	八島 真人	防衛大学校
	※山中 将	東北大学
会計監事	大輪 武司	日本機械学会
	※吉本 堅一	埼玉工業大学

※は新任

## Ⅷ. 日本IFTtoMM会議フェローの推薦

実行委員会より、下記の会員に対する日本IFTtoMM会議フェローの推薦があり、満場一致で承認された。

工学院大学 山川新二君

永年にわたり本会実行委員ならびに会計監事として本会の運営にご尽力いただき、本会活動に多大な貢献を賜りました。ここに、その業績を顕彰し、日本IFTtoMM会議フェローに推薦する。

(参考資料) 日本IFTtoMM会議フェロー (2007年7月現在)

三浦 宏文君 (工学院大学)	永年にわたり、実行委員長、実行委員を務める
梶谷 誠君 (信州大学)	永年にわたり、実行委員を務める
加藤 正名君 (東北大学名誉教授)	永年にわたり、実行委員を務める
林 輝君 (東京工業大学名誉教授)	永年にわたり、実行委員長、実行委員を務める
人見 宣輝君 (東北大学)	永年にわたり、会計監事、実行委員を務める
堀 幸夫君 (金沢工業大学)	永年にわたり、実行委員長、実行委員を務める
舟橋 宏明君 (東京工業大学名誉教授)	永年にわたり、実行副委員長、実行委員を務める
吉本 堅一君 (埼玉工業大学)	永年にわたり、実行副委員長、実行委員を務める
川島 忠雄君 (東京電機大学)	永年にわたり、実行委員を務める
久保 愛三君 (京都大学名誉教授)	永年にわたり、実行委員を務める

総会の様子を以下の写真で示す。

(文責 岩附)



中村実行委員長挨拶



岩附幹事による議事進行



日本IFTtoMM会議フェロー記念盾の贈呈



総会後の懇親会にて

## [5]日本IFTtoMM会議の国際活動

日本IFTtoMM会議はIFTtoMM本部の活動に積極的に貢献しています。次期ECの副会長に中村実行委員長が就任されることをはじめ、各分野のTCの委員を下記のように輩出しています。

日本IFTtoMM会議会員のIFTtoMM TC 委員

Committee	Members
Gearing	北條春夫(東工大), 森脇一郎(京都工繊大)
Human-machine Systems	伊能教夫(東工大)
Linkages and Cams	寺田英嗣(山梨大)
Mechatronics	横田眞一(東工大)[Chair], 下條誠(電通大), 岩附信行(東工大)[Observer]
Micromachines	堀江三喜男(東工大), 鈴木健司(工学院大)
Nonlinear Oscillations	金子成彦(東大), 矢ヶ崎一幸(岐阜大)
Reliability	下田博一(明治大)
Robotics	中村仁彦(東大), 武田行生(東工大), 岩附信行(東工大)[Observer]
Rotordynamics	田中正人(富山県立大)

## [6]RoManSy2008の開催

本会実行委員、早稲田大学高西淳夫先生らの尽力により、伝統のある国際会議RoManSy (CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics and Control)を2008年7月5日～9日、東京の早稲田大学国際会議場にて開催します。詳細は次ページをご覧ください。会員諸兄の積極的な参加をお願いします。(文責 岩附)

## [7]訃報

本会実行委員である首都大学東京、谷江和雄先生におかれては、かねて病気療養中のところ2007年6月9日(土)に逝去されました。享年60歳という若さの、惜しみても余りあるお別れとなりました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

各位にはよくご存知のように、谷江先生は産業技術総合研究所から首都大学東京にお勤めの間、ロボット工学研究のトップリーダーとして国際的な活躍をされておられました。本会においても、1994年度から実行委員をお勤めいただき、本会の運営に多大な尽力をいただき、深く感謝いたしております。IFTtoMM本部に関してもそのRobotics TC委員を長く勤められ、我が国のロボット工学研究者と世界のロボット研究者の橋渡しのためのキーパーソンでありつづけました。特に、RoManSyの実行委員の最重要メンバーであり、そのバンケットにおいて谷江先生の母校の校歌「都の西北」を合唱するのが慣例となっているほどでした。このため、2007年6月17日(日)～21日(木)に開催された12th IFTtoMM World CongressにおけるRobotics TCおよびGeneral Assemblyにて谷江先生のために黙祷が捧げられました。まさに、偉大な先達を喪った思いであります。

ご葬儀は近親者のみで済まされ、2007年9月1日(土)にロボット工学関係者を中心に各界からの発起により、早稲田大学にて「谷江和雄先生を偲ぶ会」が開催されました。ここに、本会会員各位に報告させていただくとともに、改めて先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(文責 岩附)



## RoManSy 2008

### 17th CISM-IFTToMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control

July 5-9, 2008, Tokyo, Japan

[www.romansy2008.org](http://www.romansy2008.org)

The First CISM-IFTToMM Symposium on Theory and Practice of Robots and Manipulators was held on Sept. 5-8, 1973, in Udine, Italy, not long after IFTToMM had been founded in 1969. The first ROMANSY, or Ro.Man.Sy., as the Symposium used to be referred to, marks the beginning of a long-lasting partnership between two international institutions, CISM, the *Centre International des Sciences Mécaniques* and IFTToMM, the *International Federation for the Promotion of Mechanism and Machine Science*.

The ROMANSY2008 will preserve this tradition, by encouraging papers that are of a broad interest and a dose interaction of the participants during the presentations. In particular, the conference solicits papers providing a vision of the evolution of the robotics disciplines and signaling new directions in which these disciplines are foreseen to develop. Paper topics include, but are not limited to:

- i) novel robot design and robot modules/components;
- ii) service, education, medical, welfare and rescue robots;
- iii) humanoid robots, bio-robotics, multi-robot systems, embodied multi-agent systems;
- iv) challenges in control, modeling, kinematical and dynamical analysis of robotic systems;
- v) sensor systems for robots, perception;
- vi) space robots;
- vii) recent advances in robotics.

#### Important dates:

1. **Full paper submission deadline: November 1st, 2007;**
2. Decision of acceptance: **December 31st, 2007;**
3. **Final version of accepted papers and registration of authors: February 15th, 2008;**
4. For **YOUNG DELEGATES IFTToMM PROGRAM (YD)** grants, applications can be entertained prior to a final decision on acceptance of papers; a conditional decision will be made.

#### Conference Venue:

International Conference Center,  
Waseda University, Tokyo, Japan  
(Map: <http://www.waseda.jp/eng/campus/nishiwaseda.html>)

#### Contact:

Ms. Hisako Ohta (Secretariat)  
Humanoid Robotics Institute, Waseda University  
41-2-04A Kikuicho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0044  
Japan  
Email: [contact@romansy2008.org](mailto:contact@romansy2008.org)



## Submission Guideline:

	Submission Paper	Camera-Ready Paper
Language	American or British English (not in a mixture of both)	
Format	8 pages (included authors' email addresses, figures, tables and illustrations) The template can be downloaded at: <a href="http://www.cism.it/cism/instruc.htm">http://www.cism.it/cism/instruc.htm</a> .	
File Format	PDF created either from WORD or LaTeX template	PDF created ONLY from LaTeX template (Limited support for conversion from WORD to LaTeX will be provided at the authors' cost.)
Deadline	<b>November 1st, 2007</b>	<b>February 15th, 2008</b>
Submission	To the ROMANSY 2008 Organizing Committee via email, to the address: <a href="mailto:paper-submission@romansy2008.org">paper-submission@romansy2008.org</a>	
Young Delegates IFToMM Program	For details please check <a href="http://www.iftomm.org">http://www.iftomm.org</a> (under menu Conferences).	

## Registration:

Registration fee is the following or equivalent in JPY with the exchange rate valid at the moment of payment. Authors should normally register upon submission of their papers in the final form. The registration form will be available through the Internet web page.

(Fees are in USD)	Before March 31st, 2008	After April 1st, 2008
Participants from IFToMM Member Organizations	450	500
Others	470	520

## Honorary Organizing Committee:

K. Shirai (President of Waseda University, Japan)

## Organizing Committee:

A. Takanishi (Waseda University, Japan)

M. G. Fujie (Waseda University, Japan)

S. Sugano (Waseda University, Japan)

S. Hashimoto (Waseda University, Japan)

Y. Nakamura (Chairman of Japanese Council of IFToMM, University of Tokyo, Japan)

N. Iwatsuki (Secretary General of Japanese Council of IFToMM, Tokyo Institute of Technology, Japan)

T. Fukuda (Nagoya University, Japan)

## Program Committee Co-Chairs:

Y. Nakamura (Chairman of Japanese Council of IFToMM, University of Tokyo, Japan)

B. Heimann (Chair of TC Robotics, Hannover University, Germany)

## Steering Committee:

P. Bidaud (Laboratoire de Robotique de Paris, France)

M. Ceccarelli (University of Cassino, Italy)

I-Ming Chen (Nanyang Technological University, Singapore)

B. Heimann (Chair of TC Robotics, Hannover University, Germany)

O. Khatib (Stanford University, USA)

E. Martin (Canadian Space Agency, Canada)

W. Schiehlen (CISM representative, University of Stuttgart, Germany)

A. Takanishi (Waseda University, Japan)

T. Zielińska (Warsaw University of Technology, Poland)

## Sponsor:

Japan Council of the IFToMM

## Co-sponsors:

The Robotics Society of Japan (RSJ), The Society of Instrument and Control Engineers (SICE), Japan Society for Precision Engineering (JSPE), SICE System Integration Division, JSME Robotics and Mechatronics Division

## Co-hosts:

Japan Society of Mechanical Engineers (JSME),  
Humanoid Robotics Institute of Waseda University (HRI),  
Waseda University

